日台オンライン国際シンポジウムの報告

新潟・台中・彰化の地域産業の取引関係のネットワーク分析

文責:新潟大学大学院博士後期課程 曽國哲

2022年8月8日(月)に新潟大学アジア連携研究センター附置・中小企業ナレッジネットワークセンターが主催で、台湾彰化師範大学企業管理学部と台湾台中科技大学情報管理学部が共催で、「新潟・台中・彰化の地域産業の取引関係のネットワーク分析」をテーマとして国際シンポジウムが開催されました。開会の挨拶は、新潟大学中小企業ナレッジネットワークセンター長の有元知史准教授が担当され、来賓挨拶は、台湾彰化師範大学企業管理学部長の呉信宏教授が担当されました。プログラム全体は三つのセクション構成で、第1セクションは「新潟燕三条地域のネットワークに関する紹介・分析」を題として、新潟大学経済科学部の張文婷講師と大学院博士後期課程の曽國哲とが報告しました。張文婷講師は「ネットワーク分析の概念と理論」を報告され、ネットワーク理論と方法論を紹介されました。院生の曽國哲は「燕三条産業集積地における企業間取引ネットワークの比較分析」を報告し、新潟県の燕三条地域にあるプラスチック製品製造業のネットワークの構造を具体的に紹介しました。

第2セクションは「台中・彰化地域産業クラスターのサプライチェーンに関する紹介・分析」を題として、台湾台中科技大学の連俊瑋教授と台湾彰化師範大学の白凢芸教授が報告されました。連俊瑋教授は「台湾中部地方産業クラスターとサプライチェーンのレジリエンス:自転車産業を例として」を報告され、GIANTを初めとする台湾の自転車産業のサプライチェーンの構造とその構造のレジリエンスを分析する方法論を紹介されました。白凢芸教授は「台湾彰化における産業の現状と未来の発展」を報告され、台湾の彰化県にある諸産業の特徴と未来の発展を紹介されました。

第3セクションでは、各々の地域にある産業の特徴、具体的な研究の方法論、データの収集方法に関しての日台間の違い及びデータ収集の困難点への克服方法などについて、活発な全体議論が行われました。とりわけ、新潟大学中小企業ナレッジネットワークセンターと台湾彰化師範大学企業管理学部と台湾台中科技大学情報管理学部とは、これからどのように具体的に国際共同研究を進めれば良いかも具体的に議論されました。例えば、新潟県の燕三条地域のような水平的に構築されているネットワーク研究と、台湾台中と彰化の自転車産業における垂直的なサプライチェーンとは、どのように概念的・理論的に比較しながら、互いに研究方法上の利点を補い合えば良いかに関しては、詳細な意見交換が行われました。新型コロナウイルスの影響で、オンラインを経由してシンポジウムが開催されたのは、今回は第3回となった。1回目は2021年2月20日に開催した日台シンポジウムで、「中小企業ネットワーク日台比較一価値共創を中心に一」をテーマとして意見交換が行われました。

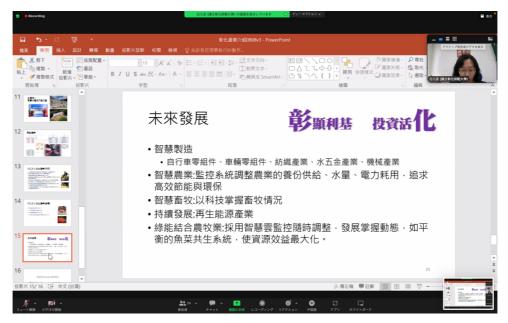
2回目は2021年12月29日に開催した日韓シンポジウムで、「地域産業のイノベーション: 大学の役割と産学連携」をテーマとして活発な議論が行われました。今回の3回目の意見 交換の最後に、来年日本の研究チームが台湾に訪れ、現地考察を行う可能性についても歓談 されました。パンデミックが終息されたら、日本の研究チームが台湾(または韓国)の交流 校、及び現場の企業フィールドに訪問し見学することが期待される。



日台シンポジウムの進行状況



台湾台中・彰化地域にある自転車サプライチェーン関連企業(連俊瑋教授のご報告)



台湾彰化における産業の現状と未来の発展(白凢芸教授のご報告)



新潟三条市立大学の李健泳教授と台湾台中科技大学の連俊瑋教授との意見交換